

第165回 日商簿記1級 商業簿記

採点欄

問1 20X6年度における損益計算書を作成しなさい。

		損益計算書			
		自20X6年4月1日 至20X7年3月31日		(単位：千円)	
I	売上高			(②	6,162,115)
II	売上原価				
1	商品期首棚卸高	(	648,000)		
2	当期商品仕入高	(①	3,941,850)		
	合計	(	4,589,850)		
3	商品期末棚卸高	(①	538,850)		
	差引	(	4,051,000)		
4	棚卸減耗損	(②	7,050)	(	4,058,050)
	売上総利益			(	2,104,065)
III	販売費及び一般管理費				
1	販売費	(	810,400)		
2	一般管理費	(①	238,800)		
3	退職給付費用	(②	5,190)		
4	貸倒引当金繰入	(②	13,850)		
5	減価償却費	(②	88,772)		
6	資産除去債務利息費用	(①	1,082)	(	1,158,094)
	営業利益			(	945,971)
IV	営業外収益				
1	有価証券評価益	(①	31)		
2	為替差益	(②	230)		
3	受取利息		4,687	(	4,948)
V	営業外費用				
1	手形売却損		87		
2	社債利息	(①	9,773)	(	9,860)
	経常利益			(	941,059)
VI	特別利益				
1	社債買入消却益	(②	1,970)		
2	固定資産売却益		500	(	2,470)
	税引前当期純利益			(	943,529)
	法人税、住民税及び事業税			(	132,500)
	当期純利益			(	811,029)

問2 20X6年度の貸借対照表における次の(1)～(5)の金額を求めなさい。

(単位：千円)

(1)買掛金	(2)契約負債	(3)資産除去債務	(4)社債	(5)繰越利益剰余金
① 504,540	① 160,385	① 29,637	① 291,583	① 923,029

○印…予想配点

第165回 日商簿記1級 会 計 学

問題 1

採 点 欄

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
① 減 算	① 資 産	① 400	① 懸 念
(オ)	(カ)	(キ)	(ク)
① 担 保	① 21, 525	① 見 積 り	① リ ス ク

(別解) (カ) 21, 526

問題 2

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	株主資本				その他の 包括利益 累計額	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式			
当期首残高	1, 000, 000	500, 000	② 320, 280	△ 80, 000	② 22, 400	② 140, 520	1, 903, 200
当期変動額							
株式の発行	① 100, 000	100, 000					200, 000
剰余金の配当			△ 20, 000				△ 20, 000
親会社株主に 帰属する当期 純利益			② 121, 430				121, 430
自己株式の 処分		① △ 2, 000		① 20, 000			18, 000
子会社株式の 売却による 持分の増減額		② 10, 080					10, 080
株主資本以外 の項目の当期 変動額(純額)					② △ 3, 700	② 75, 540	71, 840
当期変動額合計	100, 000	108, 080	101, 430	20, 000	△ 3, 700	75, 540	401, 350
当期末残高	1, 100, 000	608, 080	421, 710	△ 60, 000	18, 700	216, 060	2, 304, 550

※ 負数（借方金額）については、△を付しなさい。

※ 空欄とすべき箇所については、「－」などを付す必要はなく、空欄のままとしなさい。

○印…予想配点

(注意) 解答速報はTAC(株)が独自の見解に基づき、サービスとして情報をご提供するものです。本試験の結果等（合格基準点・可否）について保証するものではありません。なお、解答速報の内容につきましては予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。

第165回 日商簿記1級 工業簿記

採 点 欄

問 1

①	120,000	円
②	80,000	円
③	44,800	円
④	83,200	円
⑤	150,000	円

①
①
①
①
①

問 2

仕 掛 品

月 初 有 高	578,000	当 月 完 成 高 (①	1,890,000)
直 接 材 料 費 (①	865,000)	月 末 有 高 (①	253,000)
直 接 労 務 費 (①	245,000)		
製 造 間 接 費 (①	455,000)		
(	2,143,000)	(	2,143,000)

問 3

直接材料費差異	消 費 数 量 差 異	①	7,200	円	(借方・ <u>貸方</u>)
直接労務費差異	賃 率 差 異	①	7,600	円	(<u>借方</u> ・貸方)
	時 間 差 異	①	5,600	円	(<u>借方</u> ・貸方)
製造間接費差異	予 算 差 異	①	8,400	円	(借方・ <u>貸方</u>)
	能 率 差 異	①	10,400	円	(<u>借方</u> ・貸方)
	操 業 度 差 異	①	7,000	円	(<u>借方</u> ・貸方)

※ 差異が借方差異であるときは「借方」、貸方差異であるときは「貸方」を○で囲むこと。

問 4

月次損益計算書

(単位:円)

売 上 高	(①	2,852,000)
売 上 原 価		
月初製品棚卸高	405,000	
当月製品製造原価 (	1,890,000)	
合 計 (①	2,295,000)	
月末製品棚卸高 (①	585,000)	
差 引 (	1,710,000)	
標準原価差異	15,000	(① 1,725,000)
売上総利益		(① 1,127,000)

問 5

①	製造	<u>購買</u>	営業	経理
②			417,750	円
③		<u>借方</u>	貸方	
④	期首有高	当期購入高	<u>当期消費高</u>	<u>期末有高</u>

適切なものを1つ○で囲むこと。 ①

①

適切なものを1つ○で囲むこと。 ①

①

適切なものを2つ○で囲むこと。 ①

○印…予想配点

TAC 簿記検定講座

第165回 日商簿記1級 原価計算

採 点 欄

問

ア	△20,000,000	(円)	①
イ	9,000,000	(円)	①
ウ	3,000,000	(円)	①
エ	900,000	(円)	①
オ	△10,100,000	(円)	①
カ	4,200,000	(円)	①
キ	1,500,000	(円)	①
ク	(△) 900,000	(円)	①
ケ	4,800,000	(円)	①
コ	6,920,560	(円)	①
サ	19,200,000	(円)	①
シ	15,795,878	(円)	①
ス	5,695,878	(円)	①
セ	20,688,600	(円)	①
ソ	17,020,553	(円)	①
タ	6,920,553	(円)	①
チ	4	(年)	①

a	業務（執行）	②
b	(加重平均) 資本コスト	②
c	内部利益	②
d	回収期間	②

○印…予想配点

(注意) 解答速報はTAC(株)が独自の見解に基づき、サービスとして情報をご提供するものです。本試験の結果等(合格基準点・可否)について保証するものではありません。なお、解答速報の内容につきましては予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。

② 原価ボックス

原価ボックス			
(*1) 1,440,600	期首未着品	60,000	売上原価 1,342,000 $\div 1.25$ 1,677,500<前T/B未着品売上>
	未着品仕入 (差 額)	(*2) 1,380,600	
		期末未着品 (貸借差額)	98,600
(*1) 1,355,400<前T/B未着品>+85,200<未処理>=1,440,600			
(*2) 1,440,600-60,000<期首未着品>=1,380,600			

(仕 入)	(*1)	1,440,600	(未 着 品)	1,440,600
(未 着 品)		98,600	(仕 入)	98,600

∴ P/L 商品期首棚卸高 : 588,000<前T/B繰越商品>+60,000<期首未着品>=648,000

∴ P/L 当期商品仕入高 : 2,561,250<一般商品仕入>+1,380,600<未着品仕入>=3,941,850

∴ P/L 期末商品棚卸高 : 440,250<期末商品帳簿棚卸高>+98,600<期末未着品>=538,850

2. 買掛金の為替予約 (振当処理)

(1) 2月25日の取引分

(為 替 差 損 益)	(*2)	370	(買 掛 金)	(*1)	2,590
(前 払 費 用)	(*3)	2,220			
(為 替 差 損 益)	(*4)	740	(前 払 費 用)		740

(*1) 370,000ドル×(@142円<3月3日のFR>-@135円<2月25日のSR>)=2,590<買掛金の増加額>

(*2) 370,000ドル×(@136円<3月3日のSR>-@135円<2月25日のSR>)=370<直々差額>

(*3) 370,000ドル×(@142円<3月3日のFR>-@136円<3月3日のSR>)=2,220<直先差額>

(*4) $2,220 \times \frac{1 \text{ か月}}{3 \text{ か月}} = 740$

∴ B/S 買掛金 : 489,000<前T/B>-72,250+85,200+2,590=504,540

3. 収益認識

(1) A社販売分

① 販売時の仕訳

(現 金 預 金 な ど)	60,000	(未 着 品 売 上)	50,000
		(役 務 収 益)	10,000

② 本来の仕訳

(現 金 預 金 な ど)	60,000	(未 着 品 売 上) (*1)	46,154
		(契 約 負 債) (*2)	13,846

(*1) $(50,000 + 10,000) \times \frac{50,000 \text{ <商品の独立販売価格>}}{50,000 \text{ <商品の独立販売価格>} + 15,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}} \div 46,154$

(*2) $(50,000 + 10,000) \times \frac{15,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}}{50,000 \text{ <商品の独立販売価格>} + 15,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}} \div 13,846$

③ 修正仕訳

(未 着 品 売 上)	3,846	(契 約 負 債)	13,846
(役 務 収 益)	10,000		

④ 決算整理

(契 約 負 債) (*)	5,769	(役 務 収 益)	5,769
---------------	-------	-----------	-------

(*) $13,846 \times \frac{10 \text{ か月}}{24 \text{ か月}} \div 5,769$

(2) B社販売分

① 販売時の仕訳

(現金預金など)	720,000	(未着品売上)	600,000
		(役務収益)	120,000

② 本来の仕訳

(現金預金など)	720,000	(未着品売上) (*1)	553,846
		(契約負債) (*2)	166,154

$$(*1) (600,000 + 120,000) \times \frac{600,000 \text{ <商品の独立販売価格>}}{600,000 \text{ <商品の独立販売価格>} + 180,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}} \doteq 553,846$$

$$(*2) (600,000 + 120,000) \times \frac{180,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}}{600,000 \text{ <商品の独立販売価格>} + 180,000 \text{ <保守点検サービスの独立販売価格>}} \doteq 166,154$$

③ 修正仕訳

(未着品売上)	46,154	(契約負債)	166,154
(役務収益)	120,000		

④ 決算整理

(契約負債) (*)	13,846	(役務収益)	13,846
------------	--------	--------	--------

$$(*) 166,154 \times \frac{2 \text{ か月}}{24 \text{ か月}} \doteq 13,846$$

$$\therefore \text{B/S 契約負債} : \frac{13,846 - 5,769}{\text{A社販売分}} + \frac{166,154 - 13,846}{\text{B社販売分}} = 160,385$$

$$\therefore \text{P/L 売上高} : 4,515,000 \text{ <前T/B一般売上>} + 1,677,500 \text{ <前T/B未着品売上>} + 130,000 \text{ <前T/B役務収益>} \\ - 3,846 - 10,000 + 5,769 - 46,154 - 120,000 + 13,846 = 6,162,115$$

4. 売買目的有価証券

(売買目的有価証券) (*)	31	(有価証券評価益)	31
----------------	----	-----------	----

$$(*) 12,500 \text{ ドル} \times @130 \text{ 円} = 1,625 \text{ <取得原価=前T/B>}$$

$$12,000 \text{ ドル} \times @138 \text{ 円} = 1,656 \text{ <時価>}$$

$$1,656 - 1,625 = 31 \text{ <有価証券評価益>}$$

5. 外貨建売掛金の期末換算と貸倒引当金

(1) 外貨建売掛金の期末換算

(売掛金) (*)	960	(為替差損益)	960
-----------	-----	---------	-----

$$(*) 480,000 \text{ ドル} \times @138 \text{ 円} \text{ <決算日のSR>} - 65,280 = 960 \text{ <為替差益>}$$

$$\therefore \text{P/L 為替差益} : 380 \text{ <前T/B為替差損益>} - 370 - 740 + 960 = 230$$

(2) 貸倒引当金

(貸倒引当金繰入) (*)	13,850	(貸倒引当金)	13,850
---------------	--------	---------	--------

$$(*) (323,240 \text{ <前T/B受取手形>} + 423,800 \text{ <前T/B売掛金>} + 960) \times 2\% = 14,960 \text{ <設定額>}$$

$$14,960 - 1,110 \text{ <前T/B貸倒引当金>} = 13,850 \text{ <繰入額>}$$

6. 減価償却

(1) 建物 (定額法)

(減価償却費) (*)	20,250	(建物減価償却累計額)	20,250
-------------	--------	-------------	--------

$$(*) 900,000 \text{ <前T/B建物>} \times 0.9 \div 40 \text{ 年} = 20,250$$

(2) 備品 (200%定率法)

(減価償却費) (*)	15,820	(備品減価償却累計額)	15,820
-------------	--------	-------------	--------

(*) $150,000 < \text{前T/B備品} > \times 0.07909 \div 11,864 < \text{償却保証額} >$

$1 \div 8 \text{年} \times 200\% = 0.25 < \text{定率法償却率} >$

$(150,000 - 86,719 < \text{前T/B備品減価償却累計額} >) \times 0.25 \div 15,820$

$15,820 > 11,864 \therefore 15,820$

(3) 機械装置

① 機械装置取得時 (当期首)

(機械装置)	527,022	(現金預金など)	500,000
		(資産除去債務) (*)	27,022

(*) $40,000 < \text{除去費用} > \times 0.67556 < \text{期間10年、4\%の現価係数} > \div 27,022$

② 当期の減価償却 (定額法) と利息費用

(減価償却費) (*1)	52,702	(機械装置減価償却累計額)	52,702
(資産除去債務利息費用) (*2)	1,082	(資産除去債務)	1,082

(*1) $527,022 \div 10 \text{年} \div 52,702$

(*2) $40,000 < \text{除去費用} > \times 0.70259 < \text{期間9年、4\%の現価係数} > \div 28,104$

$28,104 - 27,022 = 1,082 < \text{利息費用} >$

③ 除去費用の見積りの変更

(機械装置) (*)	1,533	(資産除去債務)	1,533
------------	-------	----------	-------

(*) $42,000 - 40,000 = 2,000 < \text{除去費用の増加額} >$

$2,000 \times 0.76642 < \text{期間9年、3\%の現価係数} > \div 1,533$

$\therefore \text{B/S 資産除去債務} : 27,022 < \text{前T/B} > + 1,082 + 1,533 = 29,637$

$\therefore \text{P/L 減価償却費} : 20,250 < \text{建物} > + 15,820 < \text{備品} > + 52,702 < \text{機械装置} > = 88,772$

7. 社債

(1) 前T/B社債の推定

	20X4年 4/1	20X5年 3/31	20X6年 3/31	20X7年 1月末日	20X7年 3/31
				×	
	(*1) 373,000	(*5) 378,122	(*8) 383,380		
利息配分額		(*2) 9,922	(*6) 10,058		
クーポン利息		(*3) △4,800	(*3) △4,800		
償却額		(*4) 5,122	(*7) 5,258		

(*1) 払込金額

(*2) $373,000 \times 2.66\% < \text{実効利子率} > \div 9,922$

(*3) $400,000 \times 1.20\% < \text{クーポン利子率} > = 4,800$

(*4) $9,922 - 4,800 = 5,122$

(*5) $373,000 + 5,122 = 378,122$

(*6) $378,122 \times 2.66\% < \text{実効利子率} > \div 10,058$

(*7) $10,058 - 4,800 = 5,258$

(*8) $378,122 + 5,258 = 383,380 < \text{前T/B社債} >$

(2) 買入消却分の処理

	20X4年 4/1	20X5年 3/31	20X6年 3/31	20X7年 1月末日	20X7年 3/31
			(※1) 95,845	(※5) 96,970	
利息配分額				(※2) 2,125	
クーポン利息				(※3) △1,000	
償却額				(※4) 1,125	

$$(*1) 383,380 \times \frac{1,000 \text{千口}}{4,000 \text{千口}} = 95,845$$

$$(*2) 95,845 \times 2.66\% \text{〈実効利率〉} \times \frac{10 \text{か月}}{12 \text{か月}} \div 2,125$$

$$(*3) 100,000 \times 1.20\% \text{〈クーポン利率〉} \times \frac{10 \text{か月}}{12 \text{か月}} = 1,000$$

$$(*4) 2,125 - 1,000 = 1,125$$

$$(*5) 95,845 + 1,125 = 96,970$$

(社債利息)	(※4)	1,125	(社債)	1,125
(社債利息)	(※3)	1,000	(仮払金)	1,000
(社債)	(※5)	96,970	(仮払金)	(※6) 95,000
			(社債買入消却益)	(※7) 1,970

$$(*6) 96,000 - 1,000 = 95,000 \text{〈社債の買入額〉}$$

$$(*7) 96,970 \text{〈消却時の帳簿価額〉} - 95,000 = 1,970 \text{〈消却益〉}$$

(3) 未償還分の処理

	20X4年 4/1	20X5年 3/31	20X6年 3/31	20X7年 1月末日	20X7年 3/31
			(※1) 287,535		(※5) 291,583
利息配分額				(※2) 7,648	
クーポン利息				(※3) △3,600	
償却額				(※4) 4,048	

$$(*1) 383,380 \times \frac{3,000 \text{千口}}{4,000 \text{千口}} = 287,535$$

$$(*2) 287,535 \times 2.66\% \text{〈実効利率〉} \div 7,648$$

$$(*3) 300,000 \times 1.20\% \text{〈クーポン利率〉} = 3,600$$

$$(*4) 7,648 - 3,600 = 4,048$$

$$(*5) 287,535 + 4,048 = 291,583 \text{〈B/S社債〉}$$

(社債利息)	(※3)	3,600	(現金預金)	3,600
(社債利息)	(※4)	4,048	(社債)	4,048

$$\therefore \text{P/L社債利息: } \underbrace{1,125 \text{〈償却額〉} + 1,000 \text{〈経過利息〉}}_{\text{買入消却分}} + \underbrace{3,600 \text{〈クーポン利息〉} + 4,048 \text{〈償却額〉}}_{\text{未償還分}} = 9,773$$

8. 退職給付

(1) 掛金拠出額および退職一時金の修正

(退職給付引当金)	19,000	(仮払金)	19,000
-----------	--------	-------	--------

(*) $11,000 < \text{掛金拠出額} > + 8,000 < \text{退職一時金} > = 19,000$

(2) 退職給付費用の計上

(退職給付費用) (*)	5,190	(退職給付引当金)	5,190
--------------	-------	-----------	-------

(*) $874,500 < \text{期首退職給付債務} > \times 1\% = 8,745 < \text{利息費用} >$

$705,250 < \text{期首年金資産} > \times 2\% = 14,105 < \text{期待運用収益} >$

$6,000 < \text{数理計算上の差異} > \div 8 \text{年} < \text{平均残存勤務期間} > = 750 < \text{差異の当期償却額} >$

$9,800 < \text{勤務費用} > + 8,745 - 14,105 + 750 = 5,190 < \text{退職給付費用} >$

9. 費用の見越・繰延

(前払費用)	49,600	(販売費)	49,600
(一般管理費)	27,800	(未払費用)	27,800

∴ P/L販売費 : $860,000 < \text{前T/B} > - 49,600 = 810,400$

∴ P/L一般管理費 : $211,000 < \text{前T/B} > + 27,800 = 238,800$

10. 法人税、住民税及び事業税の計上

(法人税、住民税及び事業税)	132,500	(仮払法人税等)	61,000
		(未払法人税等) (*)	71,500

(*) 貸借差額

11. 繰越利益剰余金

∴ B/S繰越利益剰余金 : $112,000 < \text{前T/B} > + 811,029 < \text{P/L当期純利益} > = 923,029$

【会計学解説】

第1問 空欄記入問題

1. 税効果会計

税法上の損金算入限度額を超えた減価償却費からは、将来**減算**一時差異が生じ、繰延税金**資産**が計上される。

例えば、前年度末および当年度末における将来**減算**一時差異がそれぞれ20,000千円および22,000千円であり、適用すべき法定実効税率がそれぞれ35%および30%であるとき、当年度における法人税等調整額は**400**千円となる。

20,000千円<前期末>×35%=7,000千円<前期末の繰延税金資産>

22,000千円<当期末>×30%=6,600千円<当期末の繰延税金資産>

6,600千円-7,000千円=400千円<繰延税金資産の減少額=法人税等調整額(借方)>

2. 貸倒懸念債権に対する貸倒見積高の算定

「金融商品に関する会計基準」によると、貸倒**懸念**債権については、①債権額から**担保**の処分見込額および保証による回収見込額を減額し、その残額について債務者の財政状態および経営成績を考慮して貸倒見積高とする財務内容評価法の他、②キャッシュ・フロー見積法によって貸倒見積高を算定するものとされている。

キャッシュ・フロー見積法による場合、例えば当期末の帳簿価額が50,000千円、当初の約定利子率が年3%で、2年後および3年後のキャッシュ・フローがそれぞれ500千円および30,600千円と見込まれる場合、貸倒見積高は**21,525**千円となる。

500千円÷1.03²+30,600千円÷1.03³≒28,475千円<将来キャッシュ・フローの現在価値>

50,000千円-28,475千円=21,525千円

(別解)

500千円÷1.03²≒471千円
30,600千円÷1.03³≒28,003千円 } 28,474千円<将来キャッシュ・フローの現在価値>

50,000千円-28,474千円=21,526千円

3. 会計上の見積りの開示

「会計上の**見積り**の開示に関する会計基準」は、当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の**見積り**によるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼす**リスク**（有利となる場合及び不利となる場合の双方が含まれる。）がある項目における会計上の**見積り**の内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とする。

第2問 連結会計（以下、単位：千円）

1. 個別株主資本等変動計算書（20X3年度）

	資本金		資本剰余金		利益剰余金		自己株式		評価・換算差額等	
	P社	S社	P社	S社	P社	S社	P社	S社	P社	S社
当期首残高	1,000,000	400,000	500,000	—	300,000	280,000	△80,000	—	20,000	13,000
当期変動額										
株式の発行	100,000		100,000							
剰余金の配当					△20,000	△6,000				
当期純利益					120,000	26,000				
自己株式の処分			△2,000				20,000			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									△2,000	△2,000
当期変動額合計	100,000		98,000	—	100,000	20,000	20,000	—	△2,000	△2,000
当期末残高	1,100,000	400,000	598,000	—	400,000	300,000	△60,000	—	18,000	11,000

(注) P社当期純利益：400,000千円-(300,000千円-20,000千円)=120,000千円

S社当期純利益：300,000千円-(280,000千円-6,000千円)=26,000千円

P社自己株式の処分(資本剰余金)：18,000千円<処分額>-20,000千円<帳簿価額>=△2,000千円<自己株式処分差損>

P社評価・換算差額等の当期変動額：18,000千円-20,000千円=△2,000千円<減少額>

S社評価・換算差額等の当期変動額：11,000千円-13,000千円=△2,000千円<減少額>

2. タイム・テーブル (S社資本の推移)

	20X1年度末		20X2年度末		20X3年度末
	80%取得				10%売却
資本金	400,000		400,000		400,000
利益剰余金	250,000	+ 30,000	280,000	利益+ 26,000 配当△ 6,000	300,000
その他の包括利益累計額 (評価・換算差額等)	10,000	+ 3,000	13,000	△ 2,000	11,000
評価差額	10,000	△ 400	9,600	△ 400	9,200
合計	670,000		702,600		720,200

(注) なお、評価差額については、後述する仕訳等を参照すること。

3. 連結修正仕訳

(1) 開始仕訳

① 土地および建物の時価評価

(土地)	(*)	8,000	(評価差額)	(*)	10,000
(建物)	(*)	2,000			

(*) $38,000 \text{千円} - 30,000 \text{千円} = 8,000 \text{千円}$ <土地の評価差額>

(*) $18,000 \text{千円} - 16,000 \text{千円} = 2,000 \text{千円}$ <建物の評価差額>

(*) $8,000 \text{千円} + 2,000 \text{千円} = 10,000 \text{千円}$

② 投資と資本の相殺消去

(資本金当期首残高)	400,000	(S社株式)	550,000
(利益剰余金当期首残高)	250,000	(非支配株主持分当期首残高)	(*2) 134,000
(その他の包括利益累計額当期首残高)	10,000		
(評価差額)	10,000		
(のれん)	(*1) 14,000		

(*) $400,000 \text{千円} + 250,000 \text{千円} + 10,000 \text{千円} + 10,000 \text{千円} = 670,000 \text{千円}$ <支配獲得時のS社資本>

$670,000 \text{千円} \times 80\%$ <一部売却前のP社持分割> = $536,000 \text{千円}$ <P社持分>

$550,000 \text{千円} - 536,000 \text{千円} = 14,000 \text{千円}$

(*) $670,000 \text{千円} \times 20\%$ <一部売却前の非支配株主持分割> = $134,000 \text{千円}$

③ のれんの償却

(利益剰余金当期首残高)	(*)	1,400	(のれん)	1,400
--------------	-----	-------	-------	-------

(*) $14,000 \text{千円} \div 10 \text{年} = 1,400 \text{千円}$

④ 利益剰余金の増加額の振替え

(利益剰余金当期首残高)	(*)	6,000	(非支配株主持分当期首残高)	6,000
--------------	-----	-------	----------------	-------

(*) $(280,000 \text{千円} - 250,000 \text{千円}) \times 20\%$ <一部売却前の非支配株主持分割> = $6,000 \text{千円}$

⑤ その他の包括利益累計額の増加額の振替え

(その他の包括利益累計額当期首残高)	(*)	600	(非支配株主持分当期首残高)	600
--------------------	-----	-----	----------------	-----

(*) $(13,000 \text{千円} - 10,000 \text{千円}) \times 20\%$ <一部売却前の非支配株主持分割> = 600千円

⑥ 評価差額の実現（建物減価償却費の修正）

（利益剰余金当期首残高）	（*1）	400	（建物減価償却累計額）	400
減価償却費				
（非支配株主持分当期首残高）	（*2）	80	（利益剰余金当期首残高）	80
			非支配株主に帰属する当期純利益	

（*1）2,000千円＜建物の評価差額＞÷5年＝400千円

（*2）400千円×20%＜一部売却前の非支配株主持分割合＞＝80千円

⑦ 開始仕訳のまとめ

（土地）	8,000	（建物減価償却累計額）	400
（建物）	2,000	（S社株式）	550,000
（資本金当期首残高）	400,000	（非支配株主持分当期首残高）	140,520
（利益剰余金当期首残高）	257,720		
（その他の包括利益累計額当期首残高）	10,600		
（のれん）	12,600		

(2) 期中仕訳

① のれんの償却

（のれん償却額）	（*）	1,400	（のれん）	1,400
----------	-----	-------	-------	-------

（*）14,000千円÷10年＝1,400千円

② 当期純利益の振替え

（非支配株主に帰属する当期純利益）	（*）	5,200	（非支配株主持分当期変動額）	5,200
-------------------	-----	-------	----------------	-------

（*）26,000千円×20%＜一部売却前の非支配株主持分割合＞＝5,200千円

③ 配当金の修正

（受取配当金）	（*1）	4,800	（利益剰余金剰余金の配当）	6,000
（非支配株主持分当期変動額）	（*2）	1,200		

（*1）6,000千円×80%＜一部売却前のP社持分割合＞＝4,800千円

（*2）6,000千円×20%＜一部売却前の非支配株主持分割合＞＝1,200千円

④ その他の包括利益累計額の減少額の振替え

（非支配株主持分当期変動額）	（*）	400	（その他の包括利益累計額当期変動額）	400
----------------	-----	-----	--------------------	-----

（*）△2,000千円×20%＜一部売却前の非支配株主持分割合＞＝△400千円

⑤ 評価差額の実現（建物減価償却費の修正）

（減価償却費）	（*1）	400	（建物減価償却累計額）	400
（非支配株主持分当期変動額）	（*2）	80	（非支配株主に帰属する当期純利益）	80

（*1）2,000千円＜建物の評価差額＞÷5年＝400千円

（*2）400千円×20%＜一部売却前の非支配株主持分割合＞＝80千円

⑥ S社株式の一部売却の修正

(S社株式) (*1)	68,750	(非支配株主持分当期変動額) (*3)	72,020
(S社株式売却益) (*2)	13,250	(資本剰余金子会社株式の売却による持分の増減額) (*5)	10,080
(その他の包括利益累計額当期変動額) (*4)	100		

(*1) $550,000 \text{千円} \times \frac{10\% \text{〈売却割合〉}}{80\%} = 68,750 \text{千円}$ 〈個別会計上の売却株式の原価〉

(*2) $82,000 \text{千円} \text{〈売却額〉} - 68,750 \text{千円} = 13,250 \text{千円}$ 〈個別会計上の売却益〉

(*3) $400,000 \text{千円} + 300,000 \text{千円} + 11,000 \text{千円} + 9,200 \text{千円} = 720,200 \text{千円}$ 〈一部売却時のS社資本〉
 $720,200 \text{千円} \times 10\% \text{〈売却割合〉} = 72,020 \text{千円}$ 〈売却した株式に対応する持分〉

(*4) $11,000 \text{千円} - 10,000 \text{千円} = 1,000 \text{千円}$ 〈その他の包括利益累計額の増加額(2年分)〉
 $1,000 \text{千円} \times 10\% \text{〈売却割合〉} = 100 \text{千円}$ 〈うち売却株式に対応する持分〉

(*5) $72,020 \text{千円} - 100 \text{千円} = 71,920 \text{千円}$ 〈売却持分〉
 $82,000 \text{千円} - 71,920 \text{千円} = 10,080 \text{千円}$

⑦ 棚卸資産に含まれる未実現利益の消去 (ダウン・ストリーム)

(a) 期首商品

㊦ 開始仕訳

(利益剰余金当期首残高)	2,000	(棚卸資産)	2,000
売上原価			

㊧ 実現仕訳

(棚卸資産)	2,000	(売上原価)	2,000
--------	-------	--------	-------

(b) 期末商品

(売上原価)	1,600	(棚卸資産)	1,600
--------	-------	--------	-------

4. 連結精算表(連結S/Sのみ)

損益計算書の科目は、すべて親会社株主に帰属する当期純利益に対する修正となる。

科 目	個別財務諸表			連結修正仕訳		連結株主資本 等変動計算書
	P 社	S 社	合 計	借 方	貸 方	
資 本 金 当 期 首 残 高	1,000,000	400,000	1,400,000	400,000		1,000,000
株 式 の 発 行	100,000	—	100,000			100,000
資 本 金 当 期 末 残 高	1,100,000	400,000	1,500,000	400,000	0	1,100,000
資 本 剰 余 金 当 期 首 残 高	500,000	—	500,000			500,000
株 式 の 発 行	100,000	—	100,000			100,000
自 己 株 式 の 処 分	△ 2,000	—	△ 2,000			△ 2,000
子会社株式の売却による持分の増減額	—	—	—		10,080	10,080
資 本 剰 余 金 当 期 末 残 高	598,000	—	598,000		10,080	608,080
利 益 剰 余 金 当 期 首 残 高	300,000	280,000	580,000	257,720 2,000		320,280
剰 余 金 の 配 当	△ 20,000	△ 6,000	△ 26,000		6,000	△ 20,000
親会社株主に帰属する当期純利益	120,000	26,000	146,000	1,400 5,200 4,800 400 13,250 1,600	80 2,000	121,430
利 益 剰 余 金 当 期 末 残 高	400,000	300,000	700,000	286,370	8,080	421,710
自 己 株 式 当 期 首 残 高	△ 80,000	—	△ 80,000			△ 80,000
自 己 株 式 の 処 分	20,000	—	20,000			20,000
自 己 株 式 当 期 末 残 高	△ 60,000	—	△ 60,000	0	0	△ 60,000
その他の包括利益累計額当期首残高	20,000	13,000	33,000	10,600		22,400
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 2,000	△ 2,000	△ 4,000	100	400	△ 3,700
その他の包括利益累計額当期末残高	18,000	11,000	29,000	10,700	400	18,700
非支配株主持分当期首残高	—	—	—		140,520	140,520
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	1,200 400 80	5,200 72,020	75,540
非支配株主持分当期末残高	—	—	—	1,680	217,740	216,060

【工業簿記解説】

問題 標準ロット別個別原価計算

問1～2 ロット別計算と仕掛品勘定の作成

1. ロット別原価計算表

ロット別原価計算表を作成すると、以下のようになる。

ロット別原価計算表							(単位：円)
ロット	118	119	120	121	122	123	合 計
月初仕掛品原価							
直接材料費							
原 料 A	120,000 ※1	150,000 ※2	—	—	—	—	270,000
原 料 B	80,000 ※1	0 ※2	—	—	—	—	80,000
直接労務費	44,800 ※1	35,000 ※2	—	—	—	—	79,800
製造間接費	83,200 ※1	65,000 ※2	—	—	—	—	148,200
小 計	328,000	250,000	—	—	—	—	578,000
当月製造費用							
直接材料費							
原 料 A ※3	—	—	60,000	105,000	195,000	165,000	525,000
原 料 B ※4	—	100,000	40,000	70,000	130,000	0	340,000
直接労務費 ※5	11,200	35,000	28,000	49,000	91,000	30,800	245,000
製造間接費 ※6	20,800	65,000	52,000	91,000	169,000	57,200	455,000
合 計	360,000	450,000	180,000	315,000	585,000	253,000	2,143,000
備 考	完成・引渡済	完成・引渡済	完成・引渡済	完成・引渡済	完成・未引渡	仕掛中	

※1 月初仕掛品原価 (ロット118)

直接材料費

原 料 A : 300円/個×400個×100% = 120,000円 (問1①)

原 料 B : 200円/個×400個×100% = 80,000円 (問1②)

直接労務費 : 140円/個×400個×80% = 44,800円 (問1③)

製造間接費 : 260円/個×400個×80% = 83,200円 (問1④)

合 計 : 月初仕掛品原価 (ロット118) 328,000円

※2 月初仕掛品原価 (ロット119)

直接材料費

原 料 A : 300円/個×500個×100% = 150,000円 (問1⑤)

原 料 B : 200円/個×500個×0% = 0円

直接労務費 : 140円/個×500個×50% = 35,000円

製造間接費 : 260円/個×500個×50% = 65,000円

合 計 : 月初仕掛品原価 (ロット119) 250,000円

※3 当月製造費用・直接材料費 (原料A)

ロット118 : — 円

ロット119 : — 円

ロット120 : 300円/個×200個×100% = 60,000円

ロット121 : 300円/個×350個×100% = 105,000円

ロット122 : 300円/個×650個×100% = 195,000円

ロット123 : 300円/個×550個×100% = 165,000円

合 計 : 当月製造費用・直接材料費 (原料A) 525,000円

※4 当月製造費用・直接材料費 (原料B)

ロット118 : — 円

ロット119 : 200円/個×500個×100% = 100,000円

ロット120 : 200円/個×200個×100% = 40,000円

ロット121 : 200円/個×350個×100% = 70,000円

ロット122 : 200円/個×650個×100% = 130,000円

ロット123 : 200円/個×550個×0% = 0円

合 計 : 当月製造費用・直接材料費 (原料B) 340,000円

※5 当月製造費用・直接労務費

ロット118: 140円/個×400個×(100%−80%)	=	11,200円
ロット119: 140円/個×500個×(100%−50%)	=	35,000円
ロット120: 140円/個×200個×100%	=	28,000円
ロット121: 140円/個×350個×100%	=	49,000円
ロット122: 140円/個×650個×100%	=	91,000円
ロット123: 140円/個×550個×40%	=	30,800円
合 計: 当月製造費用・直接労務費		<u>245,000円</u>

※6 当月製造費用・製造間接費

ロット118: 260円/個×400個×(100%−80%)	=	20,800円
ロット119: 260円/個×500個×(100%−50%)	=	65,000円
ロット120: 260円/個×200個×100%	=	52,000円
ロット121: 260円/個×350個×100%	=	91,000円
ロット122: 260円/個×650個×100%	=	169,000円
ロット123: 260円/個×550個×40%	=	57,200円
合 計: 当月製造費用・製造間接費		<u>455,000円</u>

2. 仕掛品勘定(問2)

上記ロット別原価計算表より、仕掛品勘定を作成する。

(1) 借 方(原価計算表原価要素別合計より作成)

月初有高: 578,000円(所与)

直接材料費: 525,000円(原料A) + 340,000円(原料B) = **865,000円**

直接労務費: **245,000円**

製造間接費: **455,000円**

(2) 貸 方(原価計算表ロット別合計より作成)

当月完成高: 360,000円(ロット118) + 450,000円(ロット119) + 180,000円(ロット120)

+ 315,000円(ロット121) + 585,000円(ロット122) = **1,890,000円**

月末有高: **253,000円**(ロット123)

問3 標準原価差異の分析

1. 生産データの整理

当月生産したロットをまとめて生産データを整理すると、次のようになる。なお、この生産データにもとづいて、問2の仕掛品勘定を作成してもよい。

仕掛品ー直接材料費・原料A

月初 900個	当月完成
当月投入	2,100個
1,750個	月末 550個

→ 標準消費量

仕掛品ー直接材料費・原料B

月初 400個	当月完成
当月投入	2,100個
1,700個	月末 0個

→ 標準消費量

仕掛品ー加工費

月初 570個	当月完成
当月投入	2,100個
1,750個	月末 220個

→ 標準直接作業時間

2.0kg/個×1,750個=3,500kg

2.5m²/個×1,700個=4,250m²

0.1時間/個×1,750個=175時間

(1) 直接材料費・原料A

月初仕掛品: 400個×100%+500個×100%=900個

当月投入: 200個+350個+650個+550個=1,750個(または、貸借差引で算定)

当月完成: 400個+500個+200個+350個+650個=2,100個

月末仕掛品: 550個×100%=550個

(2) 直接材料費・原料B

月初仕掛品: 400個×100%+500個×0%=400個

当月投入: 500個×100%+200個+350個+650個=1,700個(または、貸借差引で算定)

当月完成: 400個+500個+200個+350個+650個=2,100個

月末仕掛品: 550個×0%=0個

(3) 加工費(直接労務費・製造間接費)

月初仕掛品: 400個×80%+500個×50%=570個

当月投入: 400個×(100%−80%)+500個×(100%−50%)+200個+350個+650個
+550個×40%=1,750個(または、貸借差引で算定)

当月完成: 400個+500個+200個+350個+650個=2,100個

月末仕掛品: 550個×40%=220個

2. 標準原価差異の分析

(1) 直接材料費差異

① 原料A

標準150円/kg

	消費数量差異 △12,000円
標準 3,500kg	実際 3,580kg

消費数量差異：標準150円/kg×(標準3,500kg－実際3,580kg)＝(－)12,000円(借方差異)

② 原料B

標準80円/m²

	消費数量差異 +19,200円
標準 4,250m ²	実際 4,010m ²

消費数量差異：標準80円/m²×(標準4,250m²－実際4,010m²)＝(+)19,200円(貸方差異)

③ 合計

(－)12,000円＋(+)19,200円＝(+)7,200円(貸方差異)

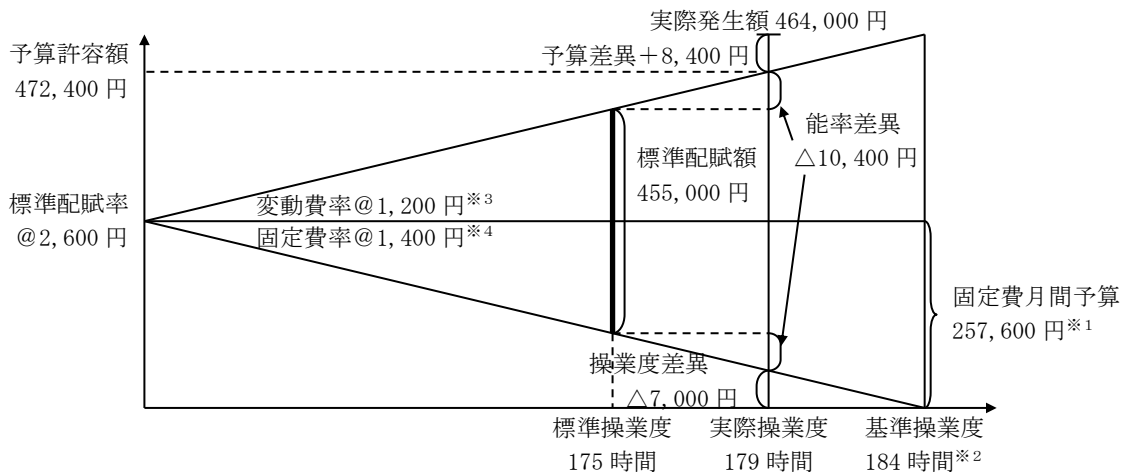
(2) 直接労務費差異

実際 ？円/時間	標準 175時間	実際 179時間
標準1,400円/時間	賃率差異 △7,600円	時間差異 △5,600円
	標準 175時間	実際 179時間

賃率差異：標準1,400円/時間×実際179時間－実際258,200円＝(－)7,600円(借方差異)

時間差異：標準1,400円/時間×(標準175時間－実際179時間)＝(－)5,600円(借方差異)

(3) 製造間接費差異



※1 固定費月間予算：3,091,200円×1/12＝257,600円

※2 月間基準作業度：2,208時間×1/12＝184時間

※3 変動費率：2,649,600円÷2,208時間＝1,200円/時間

※4 固定費率：3,091,200円÷2,208時間＝1,400円/時間

予算差異：1,200円/時間×179時間＋257,600円－464,000円＝(+)8,400円(貸方差異)

能率差異：2,600円/時間×(175時間－179時間)＝(－)10,400円(借方差異)

作業度差異：1,400円/時間×(179時間－184時間)＝(－)7,000円(借方差異)

問4 月次損益計算書

1. 販売データの整理

製 品		
月初 450個	当月販売	月初製品：450個（ロット117）
当月完成	1,900個	当月完成：2,100個（ロット118～ロット122）
2,100個	月末 650個	当月販売：1,900個（ロット117～ロット121）
		月末製品：650個（ロット122）

2. 月次損益計算書の作成

売上高：1,420円/個×450個+1,450円/個×400個+1,520円/個×500個+1,600円/個×200個
+1,580円/個×350個=2,852,000円

売上原価：

月初製品棚卸高；405,000円（ロット117・答案用紙に記入済）

当月製品製造原価；1,890,000円（ロット118～ロット122・当月完成高）

月末製品棚卸高；585,000円（ロット122）

売上原価；405,000円+1,890,000円-585,000円+標準原価差異15,000円=1,725,000円

借方差異につき、売上原価に加算

売上総利益：2,852,000円-1,725,000円=1,127,000円

問5 会話文の穴埋め（借方差異）

1. 購入原料価格差異（②と③）

原料A：(150円/kg-230円/kg)×3,100kg+(150円/kg-210円/kg)×2,400kg= (-)392,000円

原料B：(80円/m²-85円/m²)×5,150m² = (-) 25,750円

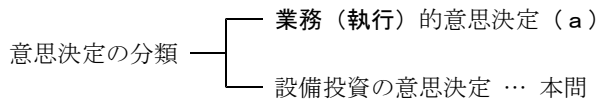
合 計：購入原料価格差異

(-)417,750円（借方差異）

2. ①と④について

解答参照

【原価計算解説】



1. 2023年度末時点の差額キャッシュ・フロー

（ア）新設備の購入にかかるキャッシュ・フロー

$\Delta 20,000,000$ 円（C O F）

（イ）旧設備の売却によるキャッシュ・フロー

$9,000,000$ 円（C I F）

（ウ）旧設備の簿価と売却価格の差

① 旧設備の2023年度末時点の簿価

$18,000,000$ 円<取得原価>− $6,000,000$ 円* <減価償却累計額>= $12,000,000$ 円

※ 旧設備の減価償却累計額

$\frac{3,000,000}{6} \text{円} (=18,000,000 \text{円} \div 6 \text{年}) \times 2 \text{年} = 6,000,000$ 円

旧設備の減価償却費

② 旧設備の売却損

$12,000,000$ 円− $9,000,000$ 円= $3,000,000$ 円

（エ）旧設備の売却損に関する節税額

$3,000,000$ 円 $\times 0.3$ = $900,000$ 円（C I F）

（オ）2023年度末時点の正味の差額キャッシュ・フロー

$\frac{\Delta 20,000,000}{\text{(ア)}} + \frac{9,000,000}{\text{(イ)}} + \frac{900,000}{\text{(エ)}} = \Delta 10,100,000$ 円（C O F）

2. 年々のキャッシュ・フロー1年分

（カ）税引後の正味差額キャッシュ・フロー（減価償却費による節税額を除く）

$\frac{8,000,000}{\text{売上増加額}} - \frac{2,000,000}{\text{現金支出原価増加額}} \times (1 - 0.3) = 4,200,000$ 円（C I F）

売上増加額 現金支出原価増加額

（キ）新設備の減価償却費による節税額

$\frac{5,000,000}{\text{新設備の減価償却費}} (=20,000,000 \text{円} \div 4 \text{年}) \times 0.3 = 1,500,000$ 円（C I F）

新設備の減価償却費

（ク）旧設備の減価償却費に基づく節税額の逸失額

$3,000,000$ 円 $\times 0.3$ =(Δ) $900,000$ 円（C O F）

（ケ）新設備に取り替える案の正味差額キャッシュ・フロー1年分

$\frac{4,200,000}{\text{(カ)}} + \frac{1,500,000}{\text{(キ)}} - \frac{900,000}{\text{(ク)}} = 4,800,000$ 円（C I F）

(カ)

(キ)

(ク)

3. 取替案の正味現在価値

（コ） $4,800,000$ 円 $\times 3.54595^*$ − $10,100,000$ 円= $6,920,560$ 円

※ 割引率5%、4年の年金現価係数

$0.952381 + 0.907029 + 0.863838 + 0.822702 = 3.54595$

4. 年々の正味差額キャッシュ・フローを再投資せず、金庫にいられた場合

（サ）2027年度末の正味差額キャッシュ・フロー

$4,800,000$ 円 $\times 4$ 年= $19,200,000$ 円（C I F）

（シ）（サ）の現在価値

$19,200,000$ 円 $\times 0.822702^* = 15,795,878.4$ 円 → **15,795,878円**（小数点以下四捨五入）

※ 5%、4年の現価係数

（ス）正味現在価値

$15,795,878.4$ 円− $10,100,000$ 円= $5,695,878.4$ 円 → **5,695,878円**

（小数点以下四捨五入）

5. 年々の正味差額キャッシュ・フローを再投資した場合

(セ) 資本コスト率で再投資した場合の終価の合計

$$\frac{48,000,000\text{円}}{2027\text{年度末}} + \frac{4,800,000\text{円}}{2026\text{年度末}} \times 1.05 + \frac{4,800,000\text{円}}{2025\text{年度末}} \times 1.1025 + \frac{4,800,000\text{円}}{2024\text{年度末}} \times 1.157625$$

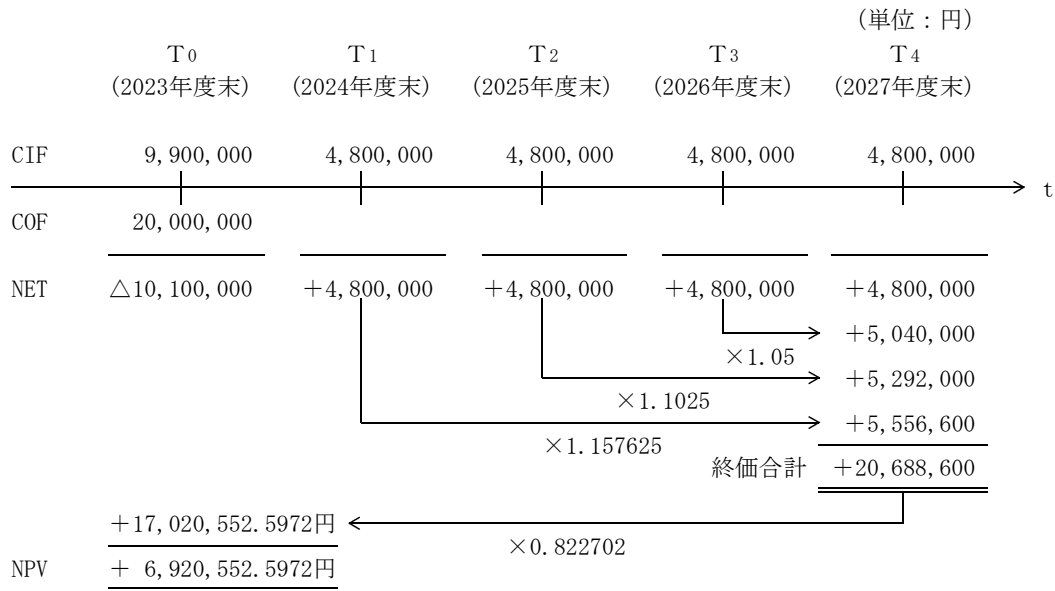
$$= 20,688,600\text{円 (CIF)}$$

(ソ) (セ) の現在価値

$$20,688,600\text{円} \times 0.822702 = 17,020,552.5972\text{円} \rightarrow 17,020,553\text{円 (小数点以下四捨五入)}$$

(タ) 正味現在価値

$$17,020,552.5972\text{円} - 10,100,000\text{円} = 6,920,552.5972\text{円} \rightarrow 6,920,553\text{円 (小数点以下四捨五入)}$$



(注) 正味現在価値法では、年々の正味差額キャッシュ・フローは(加重平均)資本コスト率(b)で再投資されると仮定しているのに対し、内部利益率法(c)では内部利益率で再投資されると仮定されている。

6. 回収期間法

初期投資額を何年で回収できるかでプロジェクトの優劣を評価する方法は「回収期間法(d)」である。

$$20,000,000\text{円} \div 5,000,000\text{円} = 4 \text{ (年)}$$